



水難避難訓練から

前途洋々

これから梅雨を迎え、大雨も予想されます。そんな折、「安全に集団下校をするとともに、通学路の危険箇所を知って回避する能力を育成する」という目的で、標題の避難訓練を29日（水）に実施しました。想定としては、「午後から大雨が予想されるので、午前で授業を打ち切り、豪雨による川や排水溝等の氾濫の危険が高まる前に給食終了後一斉下校する」というものです。言うまでもありませんが、訓練は常に緊張感をもって実施し、（あってはなりません）本番に備えて行う必要があります。子供たちは真剣に指示を聞いて行動し、おしゃべりは一切ありませんでした。全体指導では、川や海、がけ、用水路等には近付かないことや、傘のさし方について指導しました。実際は、想定外の動きを求められることもあります。万が一、台風や水害、地震等が発生したらどうするのか、近所で危険な場所はどこなのかなど、日常的に会話の中で取り上げていただければと思います。



「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の訪問学習～5年生が水俣へ！

毎年、熊本県のすべての小学5年生を対象に実施されている「水俣に学ぶ肥後っ子教室」ですが、本校の5年生は、6月7日（金）に水俣へ出向き、学びを深めます。この事業の目的は以下のとおりです。

『環境立県くまもと』づくりの担い手である熊本の子供たちに、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない信条や態度を育むとともに、環境や環境問題への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成すること。』

事前の学習、現地での学習、事後の学習を経て、この目的を達成していくことになります。私は昨年度まで勤務していた学校で、お隣の学校と合同で、「しのぶさんに会いたい！」という子供たちの声を受け、胎児性水俣病患者として広く精力的に活動されている坂本しのぶさんのお話を聞くことができました。しのぶさんはとてもマフフルで、子供たちは真剣な表情でお話に聞き入っていました。お話のすべてが心に残りました。しのぶさんがお若い頃、仕事先の近くで、馬鹿にしたようにしのぶさんの歩き方を真似する小学生に出くわしたそうです。その後、しのぶさんは、その子供たちを叱るのではなく、「自分のことをもっと知ってもらいたい。自分のことを知らないから真似をするのだろう。自分の歩き方は恥ずかしいことではない」と、その小学校で子供たちと交流する時間を取られたそうです。地域の中で共に暮らすには、お互いのことをもっと知り合う必要があるとの思いからでした。また、ベトナムに行かれたとき、ベトナム戦争時、枯れ葉剤の影響でこの世に生を受けることができなかった、ホルマリンに浸された胎児を見られたそうです。この時、涙が止まらず、「私は水俣のことを、そしてベトナムのことも、もっと周りの人に伝えていきたい。私は元気に生まれることができた。でも、生まれることができなかったこの赤ちゃんたちの分まで、世界にいろいろなことを伝えていきたい」と思ったそうです。そして、スイスのジュネーブに行かれたときは、「自分は何年も、何度も、水俣病は終わっていないということをお話し続けなければならない。このことがくやしい」と涙を流されたそうです。しのぶさんも、思い出すのも辛く、話したくないこともあると思います。そんな中、話して下さるといふところに、しのぶさんの思いや決意があると思います。人間が同じ過ちを繰り返さぬように、そしてもっと賢く今後の世界の有り方を選択していけるように・・・。

その思いを受け止めながら、これからも水俣学習を続けていきたいと思えます。また、しのぶさんは、子供たちへ、「友だちを大切にしてほしい」「水俣病は終わっていない」「自分を大切に」「自然を大切に」というメッセージを残されました。子供たちが（私たち大人もですが）、このメッセージを様々な場面で思い出してくれるといいなと思ったところです。本校の子供たちも、これからの活動をとおして、きっと大きな学び（私たち大人もです）を得ることと思います。ご家庭でも、子供たちといろいろなお話をいただければと思います。（右は県教育委員会が出している「肥後っ子教室」の概要です。県教委のHPにも掲載されています）

